

AIで浸水被害想定 NTTと春日部市が連携

調印式でAIを活用したシステムを紹介するNTT東日本埼玉南支店の花石支店長



人工知能（AI）を活用し地域の浸水被害を想定し、と、春日部市とNTT東日本埼玉南支店が11月まで共同実験を実施する。協定締結式が12日、同市役所で行われた。

実験は台風や豪雨が起った際、NTTのAIシステムが被害想定モデルを作成、結果を地図情報で市と共有する。県内で初めての取り組み。

自治体がこれまで蓄積してきた経験則に、客観的なシステムを通じて作成された想定モデルを重ね、災害対応の強化に役立てる。

システムはAIが過去の気象情報や地域の被害状況などを解析しモデルを作成。予測した浸水想定を地図上で500メ四方刻みで示すことができる。同社は近年、浸水

被害が起きた地域で通信の早期復旧を目指すなどを目的にシステムを導入している。

今回の実験では、過去に起きた市内浸水被害のデータ、被害が多く出ている地点（リ

端末で情報を共有できるようにする。市は被害が拡大しそうな大雨や豪雨を予測した場合、事前の体制づくりなどに役立てる。

締結式で同社花石啓介支店長と石川良三市長が調印。花石支店長は「AIシステムを活用することで経験則の裏にある情報を冷静に分析するところがポイント。災害に強いまちづくりを進めてほしい」と話している。（保坂直人）

スクポイント）に設置された水位センサーの数値などを使用。実験を進める中で、市の

『埼玉新聞』2021年7月15日付10面